



新型コロナが私達に与えた影響について

医療法人社団 山口医院（下条）

院長 山口 孝太郎 先生

ここ2年ほど世の中に新型コロナの風が吹き荒れました。今回は私が外来で経験した、いくつかの例についてお話しします。

感染者への差別について…経路不明で感染したご高齢の女性。治療で改善しましたが、今まで親しくしていた友人が遠ざかるようになりました。挨拶しても返さず逃げるようになり、お茶のみも途絶えました。こうした差別は勿論いけない事ですが、「差別をやめましょう」と言うだけでは無くなりません。私達にはわからないものを恐れ遠ざける本能があります。新型コロナを理解できず、恐怖を感じる事が差別につながります。正しい理解が広がることで、差別を克服して元の様なお付き合いをとり戻したいですね。

コロナ「うつ」について…流行が始まって以来「お家で過ごそう」のキャンペーンがはまりました。私の外来に来られた山間部にお住まいの中年のご婦人、しばらくの間新型コロナが怖くて外出できませんでした。外気に触れるだけで感染しそうだとおっしゃいました。山の中で外出するだけで新型コロナに感染するとは思えません。でもテレビなどで繰り返し流されたキャンペーンのため、外出が怖くなった方は大勢いたでしょう。おまけに運動ジムやプールなどの一時閉鎖も重なり、気持ち「うつ」になった方は少なくありません。感染が落ち着いている時期には、三密を避けながら、安全な状況で、上手に気分転換やお楽しみをすることも考えましょう

子供たちへの影響…新型コロナウイルスの流行のため幼稚園や学校が休みになり、修学旅行や運動会など行事の多くが無くなりました。この夏休み明け、体調不良や不登校などで私の外来を受診する子供達がいつもより多くいました。良くない影響が子供達に降りかかったのは確かだと思われます。それをどのように解決していくか難しい問題ですが、まず大人が元気になって、その姿を子供達に見せることが大切ではないでしょうか。子供は大人を見て育つというのは、いつでもどこでも一緒だと思うのです。

他の病気への影響…血便の中年男性。コロナ感染が怖くて、何か月も経ってから受診した時には未

期大腸癌でした。大腸癌では、受診控えから発見癌の進行度が悪化していることが、全国集計で明らかにされました。がん検診への参加控えから、胃癌や乳癌、子宮頸癌、肺癌などの発見数が減少していることも明らかになり、今後これらの癌による死亡率の悪化が心配されます。高血圧や糖尿病など他の病気でも、受診控えからの悪影響が報告されています。十日町市中魚沼郡医師会では、感染予防策をきちんとして診療を行っていますので、是非受診控えはしないで下さい。

第6波は必ずやってくると言われていています。今までの反省を生かして、気を緩めず、でも上手に、何とか乗り切りたいものです。



新潟県ホームページ
<https://www.pref.niigata.lg.jp/>

